



# いずみ

令和7年9月1日発行

<学校教育目標>

自ら行動する子  
かかわり合い、  
よりよい自分を  
目指す子

学校HP



コミュニティ  
スクール



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

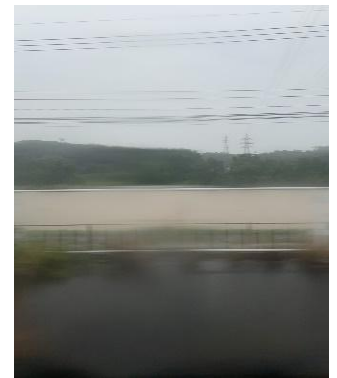
校長 鷲見 真太郎

## 備えあれば憂いなし

副校長 淋 慎一郎

今年の夏休みも酷暑でしたね。毎日のように『熱中症警戒アラート』が発令され、今まで経験したことのない気温で「これからの夏はどうなるの?」と心配するほどでした。また大阪では万博も開催されていて、文字通り暑い?熱い?夏休みになったのではないのでしょうか。普段体験できないことをたくさん経験し、しっかりフル充電して、2学期を迎えていることと思います。

今年も車で熊本に帰省してきました。今回は豪雨のため、片道26時間かけての帰省となりました。実家の近くには菊池川という大きな川が流れているのですが、自宅を出発するとき連絡をすると「菊池川が氾濫しそうだから、緊急避難する。」とのこと。幸いにして氾濫することもなく、事なきを得たのですが、実家のある玉名市というところでは、至る所で川の氾濫による浸水被害が出ていました。(右上の写真は、田んぼが水没し、川のようにになっている状況。左下は、川が増水し、一階部分が水没した施設です。)今回は、大きな被害をもたらした『菊池川』について、調べてみることにしました。



菊池川は、阿蘇外輪山北西部にある菊池溪谷に源を発し、菊池、山鹿、玉名を通過、有明海に注いでいる一級河川です。古代から洪水が多く、流域には肥沃な穀倉地帯が形成されていました。流域には全国の装飾古墳の約20%が確認されており、チブサン古墳などが国指定史跡となっています。また国宝『銀象嵌銘大刀』が発掘された江田船山古墳の副葬品などからは大陸との深い交流が伺われ、菊池川流域産の舟形石棺が遠く瀬戸内、近畿地方まで運ばれたことが分かっているそうです。洪水が起こるたびに大きな被害を出した菊池川の治水事業は、16世紀終わりから17世紀の初めにかけて加藤清正が本格的に行い、川の流れを変え、洪水被害を軽減し、新田開発事業へとつながり、豊かな穀倉地帯へと発展していったそうです。(※国土交通省 HP:日本の川-九州-菊池川-国土交通省水管理・国土保全局参照)



このように人の生活を豊かにし、密接に関わってきた菊池川。今回の大雨では、自然の脅威を知ることができました。また緊急避難をした息子の話を聞くと、何の準備もしないで避難所に行ったため、「床が硬くて辛かった。長袖・長ズボンじゃなかったのが寒かった。飲み物もあまりなかった。」と普段から災害に備えることの大切さを学ぶことができました。

狛江市には多摩川や根川などの川が流れています。1974年の多摩川決壊や2019年の多摩川氾濫など、自然災害に見舞われた歴史があります。普段は穏やかに流れている多摩川も一度猛威を振るえば成す術もありません。『備えあれば憂いなし』ということわざもあります。「日常からしっかりと準備をしていれば、いざという時も心配ない」という意味です。今回の帰省では、自然災害の脅威を感じ、防災についての意識が高まりました。

9月20日(土)は和泉防災の日です。当日は、各学年防災に関する授業を行い、こだま幼稚園と連携し、合同で引き渡し訓練を行います。また避難所運営協議会のみなさんに避難所を開設していただき、授業で防災に関するお話や体験を行ったり、引き渡し訓練後に保護者の方同伴で、避難所見学を行ったりする予定です。この機会にみなさんも非常時に備えて、持ち物や避難場所など、ご家族でもう一度確認してみたいかがでしょうか。

### 9月の安全指導

#### 災害時における行動

- 第一に自分の身の安全を確保すること。  
災害はいつどこで起こるか分かりません。  
また、家族が一緒にいるとは限らないので災害時の行動をご家庭でも話し合ひましょう。